

新川むつみ園だより

むつみ

追悼

～気持ちをつないで～

平成30年1月30日発行

柚木恭子さんを偲んで

保護者会長 山本 悦子

「そうですね」おだやかな言葉と、思慮深く物事を的確に判断される凛とした柚木さんは、四十二年間、子の幸せを願う親達の先に立ち、だれもが暮らしやすい共生社会の実現に情熱を注いでこられました。

昭和五十一年、児童施設卒園後の生活の場として、新川地域に設立を願い、二市三町一緒に「手をつなぐ親の会」を結成し、入善町会長としてご主人一夫先生と共に建設の際の力量は大変なものでした。連日柚木さん宅や田中昭人先生宅等で情熱の塊のように動いておられたことが思い出されます。熱意で行政を動かし、担当の方々の人間性、建設地域住民の方々の理解により、昭和五十六年念願の新川むつみ園が開設されました。同時に地域で暮らす人たちの活動の場も必要と、入善町中央公民館を借り「すずらん教室」を

開所し、元気に通う本人達の姿に地域の理解も少しずつ出てきました。育成会の知的障がい相談員として、一人ひとりの思いを真摯に受け止め、親も育てていただきました。

新川むつみ園が開設されてからは理事、保護者会副会長として利用者の充実した生活に尽力される一方、歯科医としてのご主人や息子さんらと共に長年に亘るご家族皆様の支えには、保護者会として深く感謝申し上げます。

今冬の大雪予報の中、来春も満開の桜と共に嬉しさを一緒に迎えることを楽しみにしておりましたのに、急なお別れは残念な想いでなりません。

私達はご尽力いただいた柚木恭子さんのおかげで現在があることに感謝し、一人ひとりが志を引き継ぎ、利用者の生活を応援していきます。有難うございました。

園長 草原 庄一

私が新川むつみ園の園長に就任して以来、柚木恭子さんは、毎月開催される来園日に併せて行われる保護者会の役員会や全体会には常に出席され、目を見開いて真剣に私の運営状況を聴いていただき、ねぎらいや励ましの言葉を多くかけていただきました。

柚木さんは、昭和五十六年四月に開所した新川むつみ園の設立にあたり、入善町育成会長として会員や新

川二市三町の育成会の皆様とともに、障害児・者を持つ親の悩みや我が子の行く末を案じる保護者の代表として、率先して県や関係市町をはじめ国、県、市町議会関係者、福祉関係団体等に対して新川地域における施設設置の必要性について要望され、入善町浦山新地内での施設整備の実施決定までに多大な貢献をされました。その当時のご苦勞が記録されている「新川むつみ園十周年誌」は、新川むつみ園新規採用職員の初任者研修の副読本として活用しています。

社会福祉法人新川むつみ園は、現在、障害者支援施設や地域生活支援センター、坊丸の郷、グループホーム五箇所、地域生活相談室、新川障害者就労・生活支援センターを運営し、新川地域における障害者のセフティネットを担う法人として発展できたのは、柚木さんをはじめ設立にご尽力をいただいた多くの方々のおかげと深く感謝しているところです。

施設開所から三十六年余りが経過し老朽化が進んできた施設の改築計画に基づき、新居住棟等の整備に着手した矢先のお別れは真に残念でなりません。柚木さんの新川むつみ園開設までのご苦勞を偲び、「みんな仲よくいたわり合って、みんな元気に励まし合って」生活する利用者の笑顔の絶えない、地域に開かれた施設運営を継承してゆくことをお誓いし、謹んでご冥福をお祈りいたします。

追悼 むつみ



総括課長 森下 吉光

初めて柚木恭子さんとお会いしたのは昭和五十六年、新川むつみ園が開所した頃でした。

その時には柚木さんのご活躍を既に聞いており、一言で表すならば「敬天愛人」という言葉であろうと思います。天を敬い人を愛することの意味ですが、まさに保護者の立場で大きな力を発揮されて来られました。

園が開所する前の昭和五十一年に、旧入善町中央公民館内にすずらん教室が開所し、初代代表を務められました。その代表の重責を果たされる一方、障がいを持つ子が親亡き

後も安心して暮らせる施設づくりを願われ、故伊林秋義保護者会長とともに入所施設新川むつみ園の建設のため、入善町手をつなぐ親の会をはじめ、二市三町の保護者と共に積極的に運動をされました。その間、施設の場所や資金面等多くの課題に取り組みました。

園が開所して、しばらくは理事として法人の運営にご尽力されました。私が在宅者の相談員になった時によく家庭訪問をさせていただきました。その頃、夫の一夫氏を介護されながら側に息子さんがおられ、和気あいあいの中で話をしたことが今でも思い出に残っています。

長く入善町手をつなぐ親の会を支えられ、その代表を譲られた後息子さんの将来を考えられ、グループホームを利用されることとなりました。平成十七年、十八年度の二年間は保護者会副会長として精力的に保護者会活動に参加をされ、時には職員員の支援のことについて助言を呈されることもありました。その度に、利用者への支援の質を高めなければという思いが強くなりました。何ごとも全力で努められた柚木さん、本当にお疲れ様でした。また、ご主人様と共に利用者のために園にご協力いただいたこと、深く感謝申し上げます。ご冥福をお祈りいたします。

保護者 澤崎 和子

昭和五十六年四月。待望の新川むつみ園が五十床で開所されました。今後、子と親のためにもせめて近くに成人施設があったらと言う思いで、柚木さんをはじめとする各市町の保護者が集まり、二市三町の市役所、役場にお願いに回りました。

「どうしたら皆が安心して過ごせる施設になるのか」と、時には入善町の田中昭人先生のお宅へ相談に行ったりもしました。先生は、「開所の時はぜひ、平井（常盤）先生に来てもらわないと」とご指導いただき、柚木さんは何度も足を運ばれた末に、常盤先生に承諾を頂いたとい



う経緯があります。施設建設の場所も何度も変わり、ようやく浦山新地区に決まり、いよいよ念願の施設が立ち上がることとなりました。資金集めの時は柚木さんご主人が先頭に立って協力してくださいました。ご夫婦そろっての行動には、ともに進めていく仲間として本当に頼りがいと安心感がありました。

新川むつみ園開設十七年後の平成十年には重度棟三十床が増築になり、また、来年度には更に充実した施設として開設する運びとなっています。柚木さんご夫婦の軌跡が二市三町の各市長、町長さん方のご理解を得たのだと思っています。一緒に励んできました同士として増改築の完成をぜひ見てもらいたかったと思ひながら、私は後々の保護者の方にも柚木さんの功績を伝えていく立場なのだと思っています。たくさん感謝の気持ちを込めて、ご冥福をお祈りいたします。

